

69:13 しかし私は【主】よあなたに祈りませぬ。神よみこころの時にあなたの豊かな恵みにより御救いのまことをもって私に答えてください。

69:14 私を泥沼から救い出し沈まないようにしてください。私を憎む者どもから大水の底から救い出してください。

69:15 奔流が私を押し流さず深い淵が私を?み込まず穴が私の上で口を閉じないようにしてください。

69:16 【主】よ私に答えてください。いつくしみ深いあなたの恵みのゆえに。あなたのあわれみの豊かさにしたがって私に御顔を向けてください。

69:17 あなたのしもべに御顔を隠さないでください。私は苦しんでいます。早く私に答えてください。

69:18 私のたましいに近づきこれを贖ってください。そうして私の敵から私を贖い出してください。

69:19 あなたはよくご存じです。私への嘲りと恥と恥辱とを。私に敵する者はみなあなたの御前にいます。

69:20 嘲りが私の心を打ち砕き私はひどく病んでいます。私が同情を求めてもそれはなく慰める者たちを求めても見つけられません。

69:21 彼らは私の食べ物の代わりに毒を与え私が渴いたときには酢を飲ませました。

69:22 彼らの前の食卓は罌となり栄えるときに落とし穴となりますように。

69:23 彼らの目が暗くなり見えなくなりますように。その腰がいつもよろけますように。

69:24 あなたの憤りを彼らの上に注いでくだ

さい。燃える怒りを彼らに追いつかせてください。

69:25 彼らの宿営が荒れ果てその天幕から住む者が絶えますように。

69:26 彼らはあなたが打たれた者を迫害しあなたに刺し貫かれた者の痛みを言いふらします。

69:27 どうか彼らの咎に咎を加え彼らをあなたの義のうちに入れなさいでください。

69:28 彼らがいのちの書から消し去られますように。正しい者と並べて彼らが書き記されることがありませんように。

22節からは敵への勝利が宣言され祈願されていますが、その信仰へと導かれたのは、先の忍罪ととりなし、そしてこの箇所にある祈りです。ただしダビデは神様の前に聞き分けの良い祈りをしたわけではありません。「あなたの恵はまことに深い」と宣言した後にも、「嘲が私の心を打ち砕き、私は、ひどく病んでいます。」と訴えています。

私たちの祈りもこのようなものではないでしょうか。信仰が与えられて心が勝利したと思っても、またしばらくすると、希望が感じられなく落ち込んでしまうのです。ダビデはその繰り返しのようなかでも、あくまでも主に訴え続けました。ここに信仰があるのです。

そしてそれこそが主との交わりの恵であり、本当の賛美へのプロセスなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

